

明治150年記念 後世に伝えたい山口県ゆかりの人物等

研究支援事業審査委員会委員による講評①

1 三宅紹宣 広島大学名誉教授

渡辺蒿蔵の経歴については、従来必ずしも正確な全体像が明らかにされていなかったが、本研究によって克服され、さらに、長州藩の海事志向についても解明されたことは、明治維新史研究においても貴重な成果をあげていると評価できます。

渡辺の松下村塾時代では、吉田松陰から期待を寄せられ、「実行」「立志」という指針を深く学んだこと、松陰が航海の益を指摘し、大学校を設立し、航海術を実地に習得することの重要性を論じていたことを明らかにしています。議論の多い松陰の攘夷思想について、単純な排外主義ではなく、積極的に海外に出て学ぶ実学精神であったことを指摘した意義は大きい。次に、長州藩の造艦や海外視察者の派遣実態の分析から、海事志向の存在を実証し、さらに西洋学所などにおいて英学志向が存在したことを解明しています。これが渡辺のイギリス留学の背景となっている。留学時代は、山尾庸三のロンドン大学での履修や、グラスゴウの造船所での技術習得を参考にして、同様の技術を習得したと推測し、それが長崎造船所で生かされたことを明らかにしており、渡辺の造船へのかかわりが、一貫して視座からとらえられたことは高く評価できます。

2 稲益あゆみ 下関市立歴史博物館学芸員

渡辺蒿蔵が造船分野を志した理由について、本人は一言で語ったようですが、今回の研究ではその背景をととても丁寧に探られ、渡辺の能力はもとより、その背景にある長州藩の人々の意識を明らかにされており、大変勉強になりました。ありがとうございました。